

## 税が添える生活の彩り

国立長崎大学教育学部附属中学校 3年 小嶺 桃佳

「増税反対。」「負担だ。」マイナスなイメージに捉えられがちな税。税を自分にはあまり関係のない遠いもの、として感じている人も多いのではないか。しかし、本当に税は「生活を圧迫するだけの遠い存在」なのだろうか。

昨年末、私たちの地域で長く親しまれてきたスポーツセンターが閉館した。愛され続けた場所だっただけに、地域に走った衝撃は大きく、そこでエアロビクスをしていた私の祖母も、がっくりと肩を落としていた。

そんな祖母の救世主の一つは、公民館講座だった。祖母は、講座を通して、たくさんの知識や新たな友人を得て帰ってくる。大好きなエアロビクスも、公民館講座などで続けられている。興味のあることを気軽に学べ、さらに、同じことに関心をもつ人々と知り合うこともでき、祖母にとってとても有意義な時間となっているようだ。

そんな祖母に影響を受けたのか、今度は祖父が、公民館での囲碁教室に参加し始めた。祖父はもともと仕事一筋で、交友関係も限定的だったが、今では幅広い年齢層の個性豊かな方々と囲碁を楽しんでいる。最近では公民館に足を運ぶ回数も増えたそうだ。公民館での交流は、祖父母の生活をより一層明るいものにしてきている。

祖父母の生活をより彩っていている公民館は、どのようにして運営されているのだろうか。調べると、公民館は基本的に市町村が運営しており、「地域性」、「教育専門性」、「公共性」が運営の原則として定められていることが分かった。また、私の住む長崎市では、いくつかの公民館の改修工事のために予算が使われていた。公共の施設は、誰もが、楽しく実りある時間を過ごせるように運営されている。

公共施設について考えて、私たちの毎日を継続的に支えてくれるような仕組みが意外にも近くにあることに気づいた。それらがあるのは税が使われて、私たちの生活の礎が知らぬ間に築かれているからだ。また、特に公民館では、ホール、和室、調理室など数多くの施設が備えてあるため、用途に応じて選択して使うことができる。税で運営されているものを利用し、自分の生活をより明るいものにする選択肢を得られるのだ。加えて、このような場は、税金の活用により、たくさんの人が長く、継続的に利用しやすい。公共施設は「それぞれの地域に根ざした交流の場」としての価値がとても高いのだと思う。

社会に目を凝らしてみると、生活の中で税が還元されている部分がきっと見つかるはずだ。思ったよりも身近にあり、私たちが自分の人生をどう彩っていくかをサポートしてくれる税。「義務」としてただ払うだけではなく、「なぜ払うのか」を改めて考え直し、自分の人生をより色彩豊かにしていきたい。